

全 国
製造数量

過去最少3552万トン

稼働率も34.5%で最低

日本アスファルト合材協会（今泉保彦会長）がまとめた2024年度のアスファルト合材統計年報によると、全国の製造数量は前年度比2.3%減の3552万3000トンとなり、過去最少を更新した。4年連続の減少で、落ち込み

に歯止めが掛からない。製造能力に基づく工場の稼働率は、前年度より0.6%低下して34.5%にとどまり、こちらも過去最低を記録した。調査は、日合協会員と非会員

の計1009工場を対象に実施し、回答率は94.6%（955工場）だった。全国資料として、おおむね全量を掌握している。

24年度のアスファルト合材製造数量の内訳は、新規合材が0.4%減の887万4000トン、再生合材が2.9%減の2664万9000トンで、いずれも過去最少となっている。工場の製造能力が8591万3000トンとほぼ横ばいで推移する中、需要の縮小に伴って稼働率も低下傾向が続いている。

ブロック別の製造数量（仮設プラント分は除く）を見ると、北海道は3.7%増の2

20万8000トン、東北は6.5%減の380万1000トン、最大市場の関東は4.0%減の1069万6000トン、北陸は1.8%増の192万3000トン、中部は3.8%減の454万1000トン、近畿は1.9%増の464万6000トン、中国は3.6%減の210万6000トン、四国は0.9%減の113万6000トン、九州・沖縄は2.8%減の432万9000トンとなり、北海道、北陸、近畿の3地区は前年度実績を上回った。

都道府県別で、前年度より増加または同数だったのは、北海道、青森、岩手、茨城、山梨、富山、石川、三重、滋賀、大阪、奈良、和歌山、鳥取、岡山、山口、徳島、香川、高知、宮崎、沖縄の20道府県。首都圏は軒並みのマイナスで、埼玉は5.7%減の226万9000トン、千葉は1.9%減の159万トン、東京は3.4%減の171万トン、神奈川県は4.9%減の192万5000トンと、いずれも過去最少となっている。

地区別の稼働率は、関東の45.2%が最高で唯一の4割

台。次いで、中部の37.6%、近畿の37.5%、北陸の33.9%、九州の30.8%が3割台となった。北海道は25.8%、東北は28.7%、中国は28.1%、四国は26.5%と2割台にとどまり、沖縄に至

っては19.7%と2割を下回った。このほか、使用先別のアスファルト合材使用数量によると、国道は228万3000トン（構成比11.6%）、都道府県道は735万9000トン（20.7%）、市町村道は1165万5000トン（32.8%）、他官庁は156万2000トン（4.4%）、高速道路は233万9000トン（6.6%）、民間は1032万5000トン（29.1%）となっている。

